

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

青森県

学校名

おいらせ町立甲洋小学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

全学年 ・ 特別活動

目標・人権教
育のねらい

- ・ 自他の存在を価値あるものとして尊重し、命を大切にできる心情を育成する。
- ・ いじめ防止のためにできることを児童自ら考え、実践していくことで、人権感覚を身に付ける。

実施した内容

- ・ 人権教室（2～6年）
- ・ 人権に関する話（人権擁護委員作成）を「人権擁護委員さんからの手紙」として校内放送
- ・ 「命の授業」講演会
- ・ 全校いじめノックアウト集会
- ・ 「Good グッド ハート」
- ・ 人権図書コーナーの設置（人権に関する本の購入と紹介）
- ・ 町主催いじめ防止標語コンクール参加
- ・ 夢短冊、夢階段設置
- ・ スクールロイヤーによるいじめ防止教室
- ・ 地域の方との共同農業体験

工夫した点

- ・ 児童の自己肯定感を高めるための取組といじめ防止のための取組の2本立てを年間通して行うことで、目標の達成を図った。
- ・ 従来4年生だけだった人権教室を、2～6年生で行ったこと。町人権擁護委員の協力のもと2、3年生、5、6年生の指導プログラムを開発していただいた。

他教科との
関連

自己肯定感を高める取組では道徳や総合的な学習の時間と、いじめ防止は特別活動と関連させて学習した。

事業成果

方法：全児童へのアンケート評価指標④、③の変容でみとる

評価指標：4段階④とでもできている⇒③できている⇒②まあまあ⇒①できていない

- ・ 知識的側面：いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。 7月 95% ⇒ 12月 95%
- ・ 価値・態度的側面：自分のよいところがわかり、自分を大切にしていますか。 7月 84% ⇒ 12月 87%
- ・ 技能的側面：人が困っているときは、進んで助けている。 7月 83% ⇒ 12月 90%

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

青森県

学校名

おいらせ町立甲洋小学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等3, 4, 5, 6年
総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・高齢者について理解し、共に生きていこうとする心や思いやりの心を育成する。
- ・地域の高齢者と活動を共にすることで、高齢者を敬う心や地域への愛着心を育む。

実施した内容

- ① 3, 4年「農業体験・食育教室」の実施
 - ・地域の高齢者とともに大根栽培。
 - ・収穫した大根を使って地域の高齢者と調理実習。
- ② 5, 6年「認知症サポーター講座（高齢者疑似体験・車いす体験）」
 - ・認知症について学び、サポーターとして小学生でもできることを確認した。
 - ・高齢者疑似体験や車いす体験を通して、高齢者についての理解を深めた。

工夫した点

- ・①農業体験ではJAからの協力を、食育教室は町保健子ども課と食生活改善推進員の協力をいただき、授業を実施した。
- ・②では町保健子ども課、社会福祉協議会や町内の老人施設職員の協力をいただいた。
- ・施設訪問は新型コロナウイルス感染症感染回避のためにできなかった。「障害者」の学習で参加協力いただいた方が全員高齢者だったので、直接会話したり、一緒に軽スポーツを楽しんだりすることができた。

他教科との
関連

社会：3学年の社会科では、地域の特色について今回の学習を生かし、体験的に学ぶことができた。
 道徳：全学年の道徳科では、親切・思いやりの学習で今回の学習を導入場面で扱い、自分事としてとらえることができるよう工夫した。

事業成果

方法：5,6年生へのアンケート評価指標④、③と記述の変容でみとる
 評価指標：4段階④とてもできている⇒③できている⇒②まあまあ⇒①できていない
 ・知識的側面：高齢者がどんなことで困っているかどのくらい知っていましたか。
 （受講前）大体知っていた8% まあまあ知っていた32% （受講後）全員が講話や体験で学んだことを記述できていた。
 ・価値・態度的側面：高齢者のことをどう思っていましたか。（前）とても好き・まあまあ好き43%⇒（後）78%
 ・技能的側面：受講後、どんな点が変わりましたか。
 手伝いたいと思うようになった、実際に手伝っている、進んで関わっている、高齢者に関わる仕事に興味が出てきた等

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

青森県

学校名

おいらせ町立甲洋小学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

4～6年 ・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

障害のある人について理解し、共に生きていこうとする心や思いやりの心を育成する。

実施した内容

- ①「障害のある方との交流会（講話、レクリエーション活動）」
- ・講話 町身障福祉社会会長他1名
 - ・レクリエーション活動 輪投げ、ラダーゲッター等の軽スポーツを児童と障害者と一緒に楽しんだ。
- ②人権図書コーナーに児童向け書籍を購入（自閉症、知的障害、パラスポーツ等）

工夫した点

- ・町社会福祉協議会の協力のもと、障害者10名を学校まで送迎していただいた。また、講話に同席し、対談形式で進めていくことで、小学生に難しい言葉は言い換えてくれた。
- ・地域の障害者でパラスポーツをしている方が見つからなかったが、レク活動にかえたことで小学生も一緒に楽しめる活動になった。

他教科との
関連

国語：交流会後に、年賀状教室の学習が予定されていたので学習をリンクさせた。児童と交流会でお世話になった障害のある方との間で年賀状のやり取りがなされた。

事業成果

方法：4,5,6年生へのアンケート評価指標④、③と記述の変容でみとる
 評価指標：4段階④ともできている⇒③できている⇒②まあまあ⇒①できていない
 ・知識的側面：障害をもっている人がどんなことで困っているかどのくらい知っていましたか。
 （受講前）大体知っていた14% まあまあ知っていた32% （受講後）全員が講話や体験で学んだことを記述できていた。
 ・価値・態度的側面：障害をもっている人のことをどう思っていましたか。（前）とても好き・まあまあ好き39%⇒（後）80%
 ・技能的側面：受講後、どんな点が変わりましたか。
 手伝いたいと思うようになった、実際に手伝っている、敬う気持ちをもった、進んで関わっている等

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

青森県

学校名

おいらせ町立甲洋小学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

5, 6年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

互いの文化や生活を尊重する態度や外国人に対しての差別をなくそうという心情を育成する。

実施した内容

「国際理解教室」実施
 講師：インドネシア人（町内在住）、日系アメリカ人（町内で企業経営）
 内容：講師の出身国の歴史や文化、日本とのつながり、また日本社会で経験したこと（差別されたことなど）の話の聞き、地域に住む外国人への理解を深めた。

工夫した点

- ・おいらせ町国際交流協会に依頼し、町内在住の外国人を講師として授業を実施できた。
- ・講師2名は国際結婚しており、夫婦で来校してくださった。それぞれのパートナーがスライド資料を提示したり、通訳をしてくれたことで、小学生にも分かり易い授業内容となった。

他教科との
関連

社会科：6年社会科において、国際理解の単元で今回の学習をもとに、他国について調べる学習を行った。

事業成果

方法：5,6年生へのアンケート評価指標④、③と記述の変容でみとる
 評価指標：4段階④とても好き・とても理解できている⇒③まあまあ⇒②少しは⇒①好きではない・理解できていない
 ・知識的側面：日本に住む外国人がどんなことで困っているかどのくらい知っていましたか。
 （受講前）大体知っていた2% まあまあ知っていた24% （受講後）全員が講話や体験で学んだことを記述できていた。
 ・価値・態度的側面：日本に住む外国人のことをどう思っていましたか。（前）とても好き・まあまあ好き43%⇒（後）78%
 ・技能的側面：受講後、どんな点が変化しましたか。
 日本人と同じように接したいと思うようになった、自分にできることをしたい、外国や外国人に関わる仕事に興味が出てきた等。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

青森県

学校名

おいらせ町立甲洋小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

4～6年 ・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

正しいルールと知識を身に付け、人権尊重の意識をもってインターネットを利用しようとする態度を養う。

実施した内容

「ネットトラブル防止教室」実施

講師：県教育庁・県警合同サポートチームSTEPS

内容：情報モラルや情報リテラシーの必要性、またネットによるいじめや犯罪（青森県の事例も紹介した）を防止するにはネットとどう付き合っていけばよいかを学習した。児童は学習したことを「SNS取扱説明書」にまとめ、発表した。

工夫した点

- ・外部講師に講演してもらうことで、青森県のトラブルの事例やネットトラブルにあってしまったらどうしたらよいかなど、当事者意識を持たせつつ具体的で説得力あるプログラムを構成した。
- ・児童に「SNS取扱説明書」を作成させることで、ネットトラブルをなくすための方法に自ら気づき、考えられるようにした。

他教科との
関連

道徳：道徳の信頼・友情の学習では、今回学んだことを導入の場面に生かし、本来あるべき友だちとのつながりを深く学ぶことができた。

事業成果

方法：4～6年生へのアンケート評価指標④、③と記述の変容でみとる

評価指標：4段階④とても好き・とても理解できている⇒③まあまあ好き・まあまあ理解できている

⇒②少し好き・少し理解できる⇒①好きではない・理解できない

・知的側面：ネットやSNSでの犯罪や被害についてのくらい知っていたか。⇒ 受講後、分かったか。

(受講前)とても38% まあまあ40% ⇒ (受講後)とても69% まあまあ24%

・価値・態度的側面：ネットやSNSにあなたの悪口が書き込みされていたらどうしていましたか。

(受講前)大人に相談する55% 仕返しを怖いので黙っている10% ⇒ (受講後)大人に相談する71% 仕返しを怖いので黙っている0%

・技能的側面：ネットやSNSで犯罪や被害に遭ったら学校や警察、相談窓口知らせることができそうか。

できる36% まあまあできそう29% たぶん27% できない8%

:受講後、ゲームやネット、SNSへの考え方や使い方は変化したか。 とても変わった31%, 少し変わった58%, 全く変わらない11%